

<待っていたのか>

11 月 16 日(水)

「まさかおまえ、俺を待っていたんじゃないかな」と声にした。西条市、山あいから平野に下りて来た所だ。ショートカットを狙い、ふと踏み入った田んぼ道にそいつは横たわっていた。80cm ほどの山カガシ。車に轢かれたのだろう、はらわたをはみ出して仰向けにくたばっていた。「11 月半ばなのに、なんでノコノコ出て来るんだ？辛かっただろうに。よし！今に楽にしてやる」と尻尾をつかみ、近くの小川に放り入れて葬った。

こいつは、確かに私を待っていたのだ。呼び寄せたのだ。でなきゃ、こんな田んぼ道に迷い込む訳がない。「不撓不屈」の精神が微塵もない潔さが生んだ必然。「成仏してくれ」と手を合わせ弔った。

10 年ほど前、あるお不動さんのご住職から言われた。「前田さん、あなたは自転車やランニングで奥まで行くでしょう。もし、蛇が轢かれているのを見つけたら、道端の草むらでもいいから、道路からどけてあげなさい。それだけで、蛇は弔われるのです。蛇は怨念が深い生き物だから、きっと後で恩返しをしてくれますよ」と。

それ以来、私は轢かれている蛇を見つけたら葬ってあげた。日が経って干からびているのもだ。木切れで道路からこさぎ落して、草むらに帰してあげた。すると、2、3 日中には新しい塾生が入るのだ。「あなた、今日蛇を始末してきたでしょ。入塾依頼があったわよ」と練習から帰った途端、妻に言われることも度々あった。鳥肌がたった。

続けて 10 年、伐採やら何やらで個体数が少なくなったのだろう、今年は 3 匹しか葬っていない。今までジャーニー中に 2 回あるが、どっちも干からびていた。なのに、今日のやつは、まだ生々しい。「俺と出合えて良かったな」と呟き、流れて行く方向を、しばし見つめていた。

話を前日、大洲～松山に戻そう。

寝る前天国、起きれば地獄。限りなく繰り返す愚行がまた一つ増えた。

猛烈な頭痛とムカツキ感に耐えて、5:00 に起床、支度。「もう二度と!!」とこの時は思うのだが、飲む段になると忘却の彼方だ。バラ色の蝶が飛んじよるわー。ええい！くそう、死んでも直らん懲りんズの面目躍如やないかい。

大洲～松山はずっと国道 56 号だ。内子を過ぎ伊予に出るまでは、何の変哲もない道だ。歩道は途切れ途切れで、10 号線犬飼～弥生とよく似ていた。退屈極まりないのである。

初日のコンビネーション(連れション)の良さは何処へやら、一方が走るともう一方が止まるという風にバラバラで、得意の猥談もノッキングだった。昨日の元気はどこやねん!

ようやく走り出したのは、犬寄トンネルを抜けた直後の下りだ。ナガオカ氏がスピードを上げて先行し、私はタラタラと下って行った。

ここで、やっと彼がパシリの本領発揮。下り着いた所にラーメン屋を発見したのである。

躊躇せずに入り、遅い昼飯をとることにした。と同時に、ナガオカ氏から予定変更を告げられた。19:00の八幡～臼杵フェリーで帰らなければならない、と言うのである。残り20kmをマジ走りし、松山駅発17:30の列車に乗るとのこと。今、14:00だ。

それなら、とビールを注文し、別れの盃を酌み交わすことにした。ほんとなら、松山で盛大に打ち上げをし、彼は、夜中の松山～小倉「サンフラワー」で帰るはずだったのだ。

肩すかしをくったようで淋しくなり、「なんだよ」と喚きながら、ショボショボと松山へ向かった。

しかし、考えてみればこれが正解。ジャーニーで、2日続けて懲りんズ様になっていい訳がない。彼の思いやりだったのかも知れない。

とにかく、この好意を無にしてはいかん。夕食はCoCo 壱番のカキフライカレー2辛、ライス500gで我慢する。ビールも、洗濯中に500ml本、店で350ml3本しか飲まなかった。情けなったらありゃあしないが、昨日のことがあるので、ここは堪えどころだった。

30分もかからずにホテルに戻れたので、翌日のルートを再検索した。松山から、海岸沿いを今治経由で西条まで行くルートだ。素面の頭で、もう一度道のりを計算すると、なんと90km以上あるやないの。今回は、初歩的なミスばかり犯している。四国だと思って、入念に地図調べをやっていなかった訳でもないのに。酔っぱらってなくて良かった。このまま行っていたら、とうてい西条には届いていなかっただろう。

急いで別ルートを探す。あつたあ！奥道後方面317号を通り、今治に抜ける道だ。山間部だが、地図で見る限りは、海岸部より10kmは短い。

フロントに下り、お姉さんに道路情報を頂く。交通量が少なく、道路状態も良く、「私も車で今治に行く時は、こちらの方を通るのですよ」とのことだった。

安心、変更である。これが、2日目のあらましだった。

'11秋のジャーニー、3日目は4:00起床、5:00出発。ジャーニー中に、これほどスッキリした目覚めはなかった。いかにアルコールが身体を蝕んでいるかが分かるが、今更止められるワケがない。酒拔きのジャーニーなど、死んでもやるものか!!

7km程ゆるい坂を上って行くと、奥道後温泉「ホテル奥道後」のでかい建物に挟まれた道にやって来た。古くて寂れている。宿泊客は少ないのだろう。6:00だというのに、人の気配がしない。ここも、時代から取り残されていくのか。

ホテルから石手ダムまでは、ラケット道路の連続急坂だった。すんげえ山道だぜ。あの姉ちゃん、ウソつきや。

松山市の水瓶である白鷺湖畔を辿り、上り下りを繰り返しながら高度を稼ぐ。交通量は極少だ。晩秋故の紅葉を期待していたが、木々は、まだグリーングリーンだった。集落は疎らで、自販機なぞない。公民館の水道を拝借し、ボトルに水を満たす。道中の食事はバーのみの予定だが、朝からエネルギーを消耗しており、すでに3本食べている。残りは、2本のバーとカロリーメイト一箱で心細い。また、生イモでもかじったろうか。

317号線は、松山方面からは、水が峠トンネルまで上り、今治までずっと下りだ。その、長さ2800mの水が峠トンネルは、歩道が広く、照明も良好で走りやすかった。ただ、500mおきに大きな換気扇が吊るされており、音が凄まじかった。

トンネルを出ると、広場で植え込みの手入れをしている年配の方々に出合った。「このトンネルは真っすぐで長いですね」と声をかけると、「この中で、警察がネズミ獲りをやるんですよ。バチあたりなことをするわなあ」との返答。そらあ誰でも引っかかるで。ポリさん、ルール違反や。山の神が怒っちゃるぜい。

5kmほどザーっと下り、玉川湖畔を巡って薬師堂の三叉路を鋭角に折れた。県道 154 号線に入る。今治を頂点とする三角形の底辺だ。ショートカット狙いだが、これがとんでもない道で、体力も気力も奪われてしまったのである。

「美肌効果抜群」が謳い文句の鈍川温泉入口までは 2 車線道路だったが、ここからは、ガードレールもない狭い道だった。その一本道を、傘を杖にして上って行く。意外にも、道沿いには家が並んでいるが、人の気配も犬の鳴き声もない。勤めに出ているのだろうか。

道は、農道の様相を呈してきた。と、そこへ乗り合いバス。すれすれで避ける。続いて耕運機が来た。お爺さんが運転していた。人がいてホッとすする。嬉しくて、大声で挨拶をする、「気をつけて行きんさい」と帽子を振って応えてくれた。道すがらの出逢いにも感動がある。こういうことが重なって、私の旅は深くなっていくのだ。財産やね。

峠のてっぺんにやって来た。頭上は天だ。その名も「空(空)の峠」なり。山の頂きを道が通っている。何のことかと思っただが、来てみて分かった。標高 300m 程だろう。

下りは、谷底へドカッと落されるような、急坂のクネクネ道だった。峠が終わった所でノックダウン、足の裏が痛くて堪らない。ソックスを脱ぎ、こぶし大の石を見つけて土踏まずを叩く。誰かに踏んづけてもらったら、どんだけ気持ちいいだろうか。エアサロなど、もはや、「屁の突っ張り」にもならない。

やや回復し、朝倉村を通過した。左手に、大きな建物が見える。観光バスが出入りし、お客さんでごった返した。タオル美術館 ICHIRO という看板。そうか、今治タオルか。こんな田舎にあっても、人は来るんだな。すげえ施設だった。

この日最後の峠は、小さいが、微かに残る体力をゼロにする様な峠だ。中でも周越トンネルは、路側帯無し危険な 500m のトンネルだった。神経もすり減らされる。

やっと抜けると、眼下には、西条、新居浜の平野が広がっていた。その向うに、コンビナートの煙突が林立している。気力を振り絞って下って行った。高い所から見て、国道 196 号に繋がるショートカット道を頭に刻んでおく。

平野に下りて、見つけておいた田んぼ道に迷わず入り込んだ。そして、奴に出合ったのである。まるで、消去法の様にして選んできた道だ。もう、運命としか云い様がない。

蛇に別れを告げ、迷いに迷った挙句、やっと 196 号に出た。残りの 20km をてくてく歩き、たまには走り、西条ルートインにチェックインしたのは、17:00 だった。

今までのジャーニーで最大の消耗だろう。穴のあいた靴下が、今日のルートのハードさを物語っていた。

ルートインには、どこでもリラクゼーションルームとコインランドリーの付いた大浴場がある。部屋はシックで、ベッドは広い。使用するビジネスの内では一番だ。料金は¥6500 ほどで、やや高めだが、その設備は魅力的だ。だが、一つだけ難点がある。たいがい、駅や繁華街から外れた所にあるということだ。ここもそうだった。駅から 2km 以上離れている。

この旅は何をしているのだろうか。墓穴を掘っているじゃないか。

案の定、ホテルの周りには、ファミレス、焼肉屋、お好み焼屋、回転寿司、ラーメン屋しかない。居酒屋は諦め、こらアカン！と飛び込んだのは、回転寿司屋だった。

私は、回転寿司屋では、イカ、タコ、メカジキを主に食べる。これらが旨ければ、その店は当たりだからだ。そして、不幸にもこの店は、それらが良かったのである。

こうなると、一人食いはタチが悪い。今日のストレスを解消しようと、ヤケ食いヤケ飲みに徹した。何をどう飲んでどう食べたか定かではないが、延々2時間、勘定は¥7500-だった。バッカじゃなからうか！回転寿司屋だど。

4日目は、西条～観音寺。5日目は、一日中雨の中、高松まで。6日日も朝から土砂降り、東かがわ市で限界となり、三本松駅から列車を拾って徳島に行き、10マイル逆走して鳴門に泊った。

最終日は、鳴門から逆方向へ40km程快走し、また、三本松駅から列車に徳島まで乗り、小松島までチョコッと走って終了した。

この間、気のきいた居酒屋には出合わず、書くべきことは何もない。2日間の冷たい雨に意気が上がらず、帳尻合わせの旅となった。繋ぎさえすればいいというものではないだろう。

「旅に非ず」である。二度とこんな旅はやってはならん。

(山カガシ)

